

回復？

依存症のテル

自分が初めて使用した薬物はマリファナでした。その後覚醒剤を使い始めるんですが…高校を卒業して電気関係の専門学校に進学したんですが、まったく興味がなくすぐに辞めてしまいました。そのころから興味のないことは何をしても続かないと言う強い気持ちが生まれてしまい仕事をしようとしてもどんな仕事かまた興味がないと言って辞めてしまうのではないかと現実から逃げていて毎日毎日、遊んでばかりいました。家に帰れば、親は遊んでいないで仕事をしろの繰り返しでした。



自分でもこのままではいけないと判っていたのですが親と顔を合わせれば仕事をしろと言われるので次第に家に帰らなくなりました。毎日パチンコに行っていて月に40万円ぐらい儲けていました。そんな生活をしている自分を見兼ねた親は家に生活費を入れるか家を出て行ってくれと言われ、その頃は金もあったので家を出て一人暮らしを始めることにしました。いざ一人で生活を始めたが何も無い殺風景な部屋に寂しさだけが募り一人でいるのが嫌で嫌でたまらなくなっていました。

だから毎日のように友達や先輩などを家に呼んで酒を飲んでいました。だんだん酒を飲むばかりの生活に飽き始めたころに、友達がマリファナを持ってきました。見事に嵌りました。前々からマリファナは、あまり体に害は無い様な事を聞いていたので罪悪感などはまったくありませんでした。その友達たちで覚醒剤だけには手を出すのを止めようと誓っていました。

ある日、友達と一緒にマリファナを買いに行ったときイラン人の売人から「スピードもあるよ」といわれスピード？それが何かわからぬまま興味本位からやり方を聞いて早速友達と一緒に使用しました。まったく眠くならず一晩中遊んでいても疲れませんでした。毎日が楽しくて楽しくて、いつも使用するようになりました。ある日、本屋に行ってドラックの本を見つけスピードのことを調べてみたらスピード＝覚醒剤と書いてあり愕然としました。小さいころに見た「人間止めますか」のフレーズの覚醒剤に手を出してしまったことに覚醒剤だけには手を出さないって決めていたのに知らなかったとはいえ手を出してしまった自分に開き直って止めることはしませんでした。その頃は吸引で使用していたので注射器で使用するしなければ大丈夫だろうと言い聞かせて毎日の様に使用していました。



2年間一人暮らしをしていてアパートの更新する金も無くなり覚醒剤を使って、げっそりしているとは知らずに親は飯も食えないのなら家に帰って来いと言ってくれました。家に帰ったけど薬は止まりませんでした。働かないと遊ぶ金も薬の金も無いので電気工事の仕事を始めました。周りの

友達や先輩も薬を使いながら仕事をしていたんですが、みんなすぐに辞めてしまいました。自分は薬を使って仕事を辞めるなら薬を辞めればいいじゃねーか！！ってよく言っていたので薬を使っているけど絶対に仕事だけは休まずに言っていました。薬を使っていることが親にバレるのも嫌だったので。薬を使用しながら仕事を 2

年位した頃に親父の工場を継ぐために仕事を変えました。小さい頃から親父のことが怖くてたまりませんでした。自分でもなぜ怖いのか判らなかつたんですが一緒に仕事をしていて理由が分かりました。怖いのではなく尊敬しすぎていて目を背けて勝手に避けていたことに自分も親父のような立派な男になりたいと思っていました。だから薬を辞めなきゃ駄目だって気持ちはあるんですが辞められませんでした。

薬を使用してから5年位たった頃、初めて親に薬を使用していることを知られてしまいました。母親は泣いていました。その時ばかりは本当に辞めなければいけない思いました。でも無理でした。今までバレずに使用していたので辞めたフリをしてうまく使用してやろうとしてました。いつもバレているんじゃないかと親の顔色ばかり気にして家にいるのが嫌になっていて仕事が終われば、すぐに友達の家に行き夜通し遊び朝帰って、そのまま仕事に行く生活を毎日のように繰り返していました。ほとんど寝ないで仕事に行くため当然のように眠くなり車を何台も潰しました。もうその頃の自分はパクられる前に辞めればいいやって気持ちでいました。



吸引で使用していたのが気が付けば注射器で使用するようになっていました。親は自分の知らないところでダルクに相談しに行っていたみたいで突然、親父に話が有るからといわれ警察に行くかダルクに行くかどちらかを選べと言われてました。今まであんな悲しい顔の親父を見たことが有りませんでした。

自分の息子を警察に突き出すことなんてしたく無いけれど薬が辞められないんだろって言われました。自分の意思でダルクに行かないと意味もないし「どうする？」自分は答えは出しませんでした。二日後、母親と姉貴が警察に相談しに行ったみたいで、その日の仕事が終わった頃に警察が来て任意同行され尿検査の結果、逮捕されました。安心しました。これでやっと薬が辞められる両親に対して恨みの気持ちもまったく有りませんでした。留置所で色々考えました。ダルクに行くか行かないかをパクられて無ければ絶対に行こうと思わなかったけれど、どうせならしっかり薬と向き合って頑張ってみようと思ひ今に至ります。

今ではダルクに来て本当に良かったなって思っています。両親にもとても感謝しています。あせらずに自分の回復をして回復した姿を迷惑をかけた家族や友人達に見せたいです。